



お元気ですか
志村 たかよし です

第552号 2011年8月7日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

「保育水準の維持・拡充」を要請

「面積基準の緩和は行わない」と区長

7月29日、日本共産党中央区議団は、区長に対し「認可保育園の面積基準緩和を行わず、保育水準の維持・拡充を求める申し入れ（項目は下記）」を行いました。

これは、厚生労働省が7月15日に「待機児童数が百人以上」で「地価の高い地域となる都市部の自治体」が独自に認可保育所の面積基準を設定することを認める方



私（左）の質問に答える福祉保健部長。右は区長

針を固め、その対象に中央区が入っている事を受けて行ったものです。

東京都は国に先がけ、面積基準を0歳児一人当たり、現行の3・3㎡から2・5㎡に引き下げる「つめこみ」を検討しています。

区の面積基準は0歳児で6・0㎡以上、1歳児で3・5㎡以上など国の基準を上回っています。これを維持させなければなりません。

一方、区内児童の4人に1人が、認可保育所より基準が緩和された認証保育所に入所しています。

私たちは保育環境の格差が生まれていることを指摘し、認可保育所の区基準の維持とともに、認証保育所も含めた保育水準の向上を求めました。

区長は「待機児解消のため認可保育所整備に取り組んでいる。面積基準を緩和するつもりはない。区の基準は守る」と答えました。

区長への申し入れ項目

- ① 認可保育園の面積基準の緩和を行わず、現在の区の保育水準を維持・拡充すること。
- ② 保育園の待機児童解消のため、「つめ込み」ではなく、区立保育園を増設すること。
- ③ 民間事業者が運営する認可・認証保育所への監督・指導を強化し、保護者の不安を払拭すること。
- ④ 区立保育所の指定管理者制度は見直し、直営に戻すこと。

「原発・放射線問題学習会」開催



元原発技術者
小倉志郎さん

～技術者の目から見た原発の恐ろしさと
子どもたちの未来について～

7月30日に開催した元原発技術者の小倉志郎氏を招いた原発学習会には多くの方に参加していただきました。

会場には「脱原発」の願いをこめたポスターがグルッと展示されました。

小倉氏の講演は、放射線が身体に及ぼす影響をわかりやすく説明した紙芝居ではじまり、原子力にあこがれてこの道に入ったこと、福島原発事故の深刻な実態、放射線の影響、内部被ばく、給食問題、など約2時間の講演・質疑

応答は、あつという間に過ぎました。

小倉氏の話で特に印象深かったのは、原発システムの全体を詳細に把握でき

紙芝居も使いながらの わかりやすいお話でした

る人は世界に一人もいない。今後、原発技術者をめざす若者は減少する。使用済み核燃料を人類は始末できない。内部被ばくは、とても深刻：などでした。

私も区内の放射線量の実態や区議会での党区議団の取り組みなどを報告しました。



当日のギャラリーに展示された「脱原発ポスター」の一部を紹介します。

ご意見、ご要望など、お気軽にご連絡ください (090-6601-6600)

